

**まいど商店街・豊中市小売商業団体連合会**



豊中市内の小店舗、各連合会や組合が個性あふれる模擬店を出店。祭りの定番メニューも勢揃い!

**盆踊り**



「子どもパフォーマンス」や「豊中のど自慢大会」。両日とも18時半からは「豊中民謡協会」、「豊鼓会」による盆踊り。夏の夕間の下、市民が妖艶に舞う

**I LOVE TOYONAKA**



小中高生が出場する「ダンスコンテスト」や「高校生バンドフェスタ」、「市民バンド」がヒートアップ! 豊中食ブランドのフードコートでは「マチカネニート(ワニ肉)」や豊中ならではの食を堪能しよう



**豊中まつり 2016**

今年の豊中まつりは…  
**8月6日(土)**  
**7日(日)**

に開催! 詳しくは次のページ「夏のイベントガイド」へ!

**取材協力**

豊中まつり事務局  
 【問い合わせ】  
<http://www.toyonakamatsuri.net>  
 TEL : 06-6840-6888



「豊中市の顔ってなんだろう」。見直しの際、豊中市の個性が議題に挙った。「交通アクセスが良い?インパクトに欠けるな」。そこで注目されたのが、豊中市は沖縄市と姉妹都市ならぬ「兄弟都市」であること。沖縄市に協力を仰いだところ快諾いただき、豊中と沖縄の文化が融合する「沖縄音舞台」が実現。当初は「豊中なのになんで沖縄?」と疑問の声もあったそうだが、今では会場内で一番の盛り上がりを見せる。特に「フィナーレ飾る沖縄の伝統的な踊り「カチャーシー」は本場ながら。出演者と観客が一体となり、もみくちゃになって踊る。あまりの激しさにスタッフは内心ひびひやしているのだとか。また、会場周辺では沖縄料理の出店やシーサーの色つけ等、文化体験も充実している。

「今年新しい企画も満載です。全世代が楽しめる祭りですから、ぜひお越しください!」

**マチカネだけにワニを食す!? 豊中食ブランドの発信**

実行委員会による直営会場が「I LOVE TOYONAKA」。小中高生のダンスコンテスト、高校の軽音部によるライブを主に開催。今年には新たな試みも。豊中食ブランドの発信だ。「市のイメージキャラクター「マチカネくん」にちなみ、「マチカネニート(ワニ肉)」を食へます」と自信たっぷり話す芳村さん。様々なワニ料理、豊中ならではの食が堪能。今後、豊中の食ブランドとしての定着が密かならぬ。もう一つのステージ「市民ふれあい広場」は、市民活動団体の発表の場。多彩なパフォーマンスが観客を魅了。出店コーナーも市民主体のため、より親しみやすい会場だ。「小学生だった子が大学生になってボランティアになったり、豊中を巣立つ子も祭りの時に帰省して同窓会を開いたり、「豊中まつり」が「市民が戻る場所」になっていることが嬉しい」と、感慨深く語る芳村さん。夜は通行規制がされるほど混み合ったため、お子さん連れやゆっくり楽しみたい方は、昼間の来場もお勧めだとか。今後さらに豊中を愛する人が溢れ、市民が集う場所がここに在り続けることを願う。「豊中まつり2016」がまもなく開催する!



**このまちが好きだ!**  
**豊中まつり**

「人と文化がふれあうまつり」をテーマに、市民参加となって20周年を迎える「豊中まつり」。 「沖縄音舞台」、「I LOVE TOYONAKA」、「市民ふれあい広場」の3つの会場をメインに、個性豊かなブースが来場者を楽しませてくれる祭りは、市民の「まちを愛する気持ち」によって創られていた。

**巻頭特集**



**I LOVE TOYONAKA 市民参加型となって20周年**

前身となる「豊中商工祭」まで遡ると1951年からの歴史を持つ「豊中まつり」。市の祭りとして親しまれるようになり、徐々に都市型イベントへと進化していった。そして1996年、「もっと豊中市を象徴するような祭りにしよう」と、豊中市の呼びかけで祭りの見直しが始まった。

「実は豊中の魅力といっても便利だけでなく、昔から引き継がれ、誰もが知っているような文化や歴史が少なく、地縁組織も弱くて。だから祭りを、まちづくりの核にして、もっと自分らのまちを好きになって欲しい思いがあった」と、当時を振り返る実行委員長の芳村幸司さん。行政や豊中商工会議所や豊中青年会議所などが集まり、プロジェクトが発足。翌年「人と文化がふれあうまつり」をテーマに、市民主導、市民参加による新生「豊中まつり」が誕生。2009年からは「まちを愛する気持ち」が、まちを豊かにする「の思いを込めて

前身為「豊中商工祭」まで遡ると1951年からの歴史を持つ「豊中まつり」。市の祭りとして親しまれるようになり、徐々に都市型イベントへと進化していった。そして1996年、「もっと豊中市を象徴するような祭りにしよう」と、豊中市の呼びかけで祭りの見直しが始まった。

「実は豊中の魅力といっても便利だけでなく、昔から引き継がれ、誰もが知っているような文化や歴史が少なく、地縁組織も弱くて。だから祭りを、まちづくりの核にして、もっと自分らのまちを好きになって欲しい思いがあった」と、当時を振り返る実行委員長の芳村幸司さん。行政や豊中商工会議所や豊中青年会議所などが集まり、プロジェクトが発足。翌年「人と文化がふれあうまつり」をテーマに、市民主導、市民参加による新生「豊中まつり」が誕生。2009年からは「まちを愛する気持ち」が、まちを豊かにする「の思いを込めて

「今年新しい企画も満載です。全世代が楽しめる祭りですから、ぜひお越しください!」

豊中まつり実行委員会 実行委員長 芳村幸司さん  
 豊中まつり事務局 事務局次長 下中絵里加さん